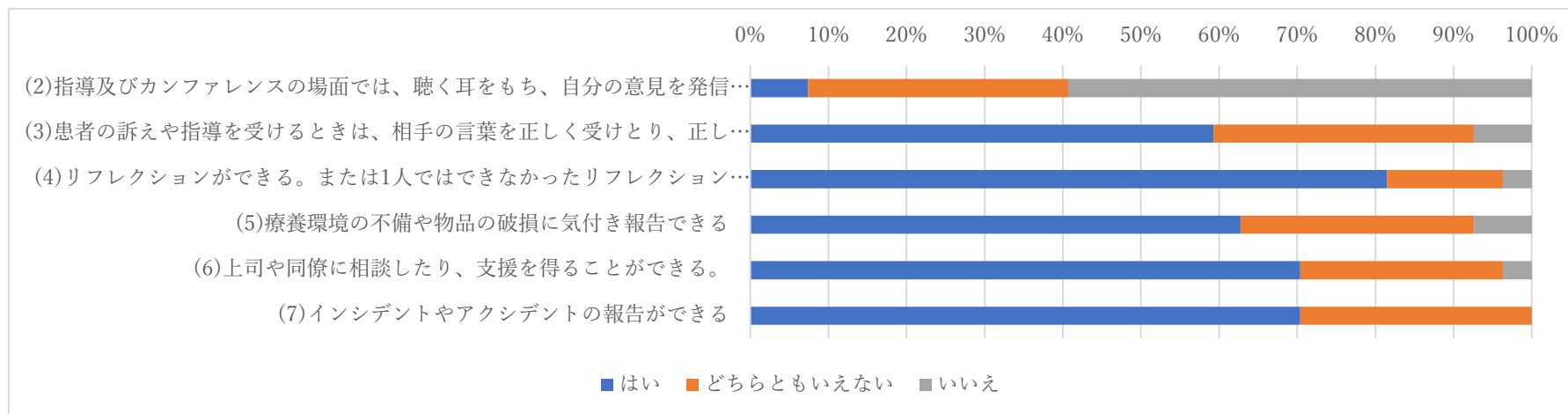
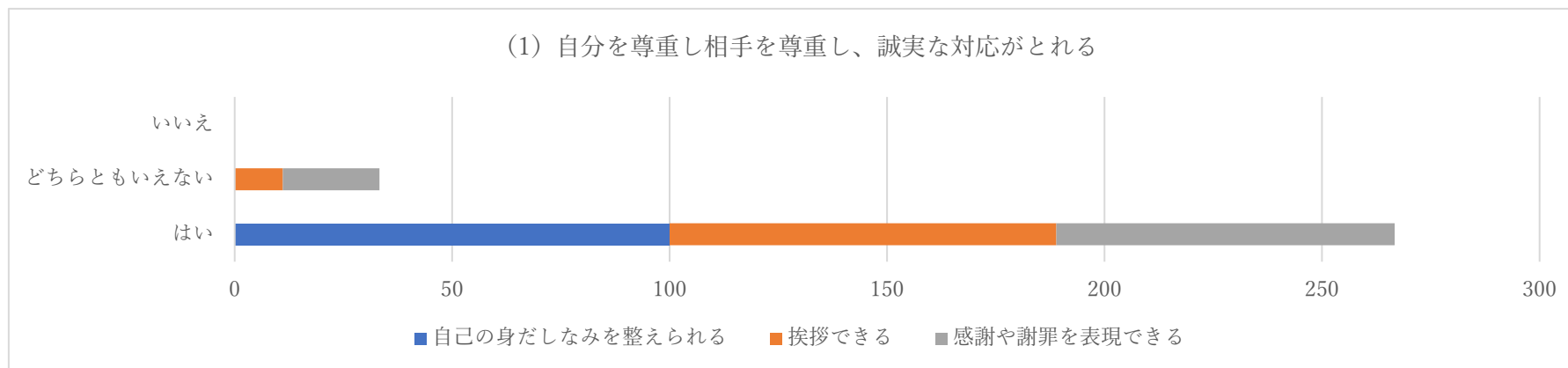


## 卒業生の状況に関する就職先アンケート結果

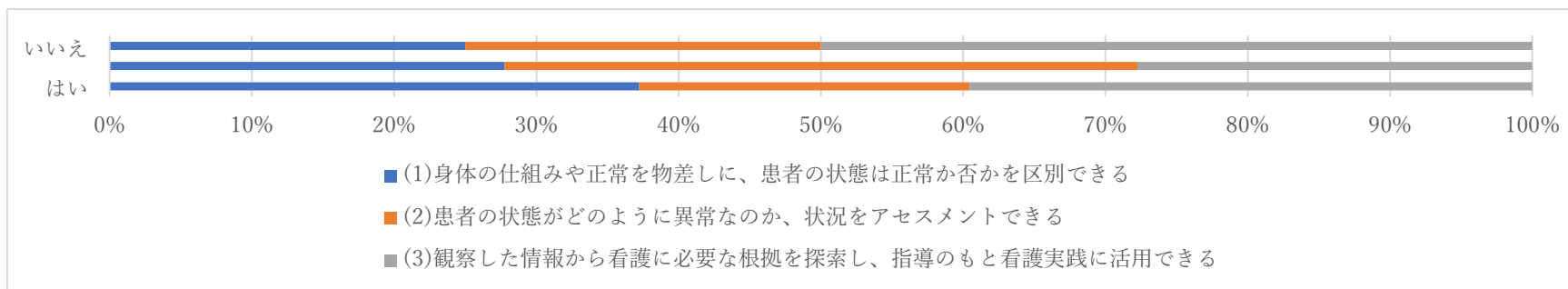
<対応する力>



対応する力の関連記載に「困った時の相談はできてもインシデントなどの報告はできない」「目の上の人への態度」「先輩達の指導に対

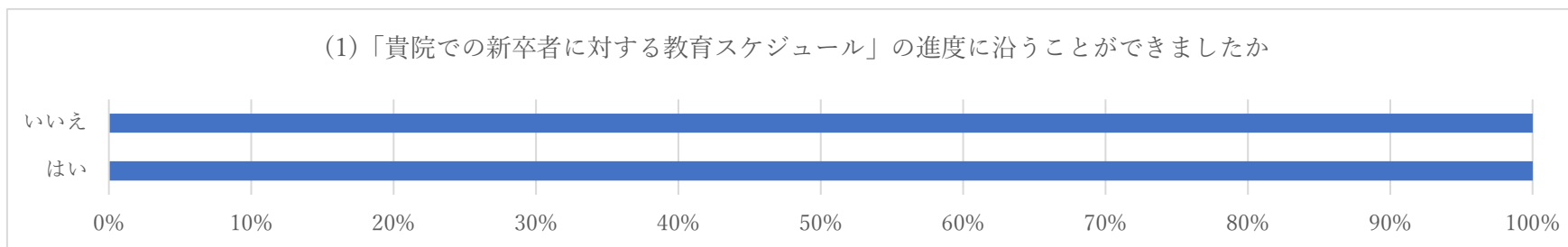
して拒否的な態度」「雇われる立場になることの心構え」「指導や注意に謙虚な態度や姿勢が欲しい」など、倫理面に関する内容が目立つ。このように倫理面に関する内容は一昨年には一部の卒業生に対しての意見であったが、今年は 17.9%の卒業生に対して記述されていた。物事の善悪を踏まえた倫理面に不足している感じを受ける。当校は授業に看護倫理の時間を増やし生活面での指導を実施しているが、看護職者のルールである看護倫理に基づいて行動する必要性の教授を一層意識しその他意図を育成したい。

<知識の獲得について>



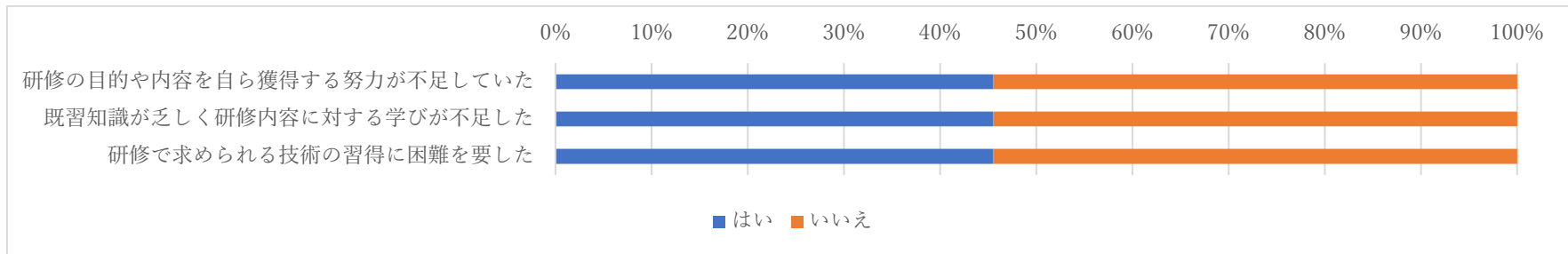
知識の獲得についての“患者の状態は正常か否かを区別できる”59.3%、“どのような状況なのかアセスメントできる”37%は例年低値である。授業で得た知識は一時の暗記が中心であり、学んだ知識を活用できていない。論理的思考やクリティカルシンキング、判断能力の育成は課題である。

<専門職業人として>

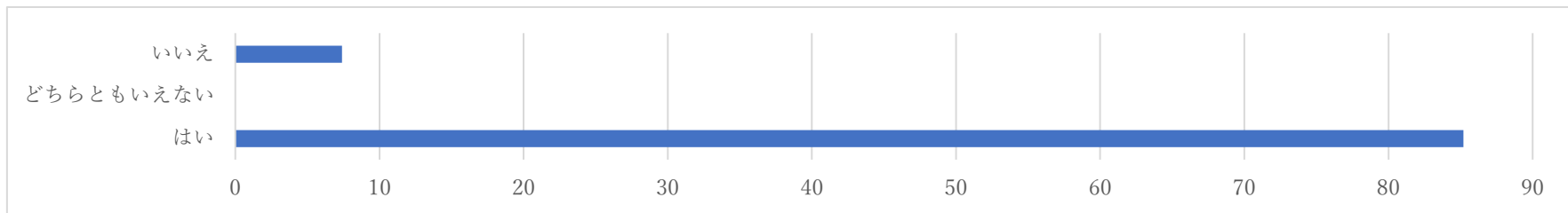


上記(1)が「いいえ」の場合

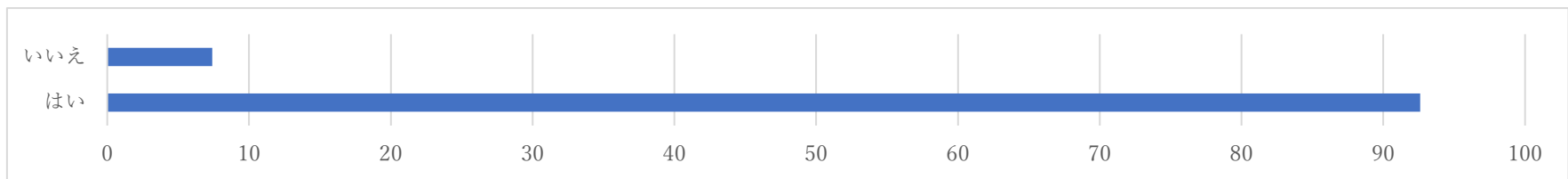
①「貴院での新卒者に対する教育スケジュール」への参加姿勢について



②この新卒者は、その後スムーズに病棟勤務などに順応できましたか？



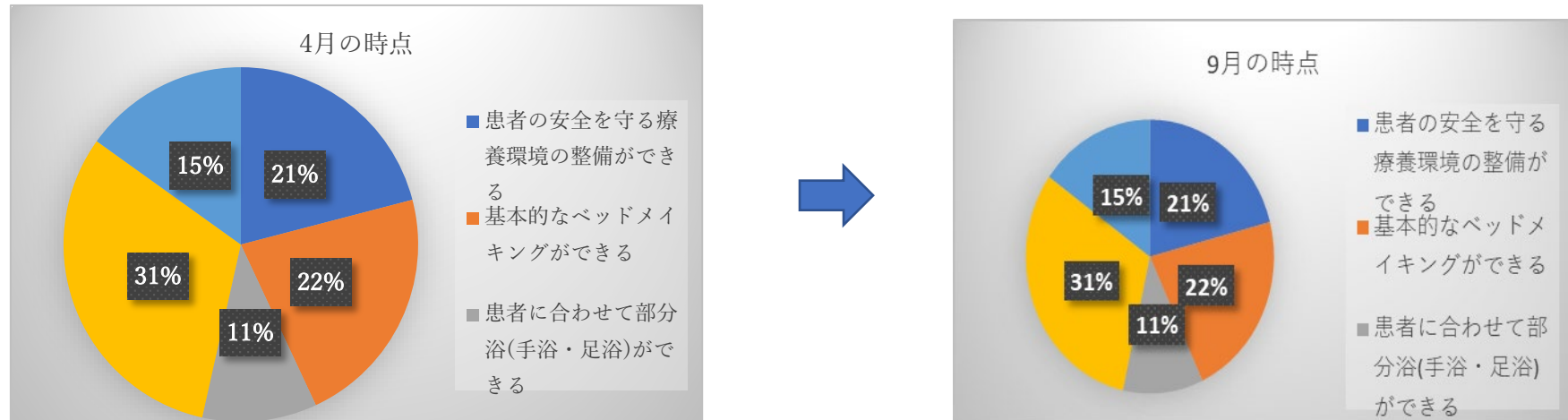
(2)現在継続して勤務しておりますか



専門職業人及び勤務姿勢についての“現在継続して勤務している”は、過去3年の卒業生は100%継続できていたが、「体調不良を原因とする無断欠勤や無断早退する」「多重業務に時間を要し他の新人職員と同じ日程で進めない」「妊娠」などの理由で今年は2名退職している。「楽しい生活をしたい」「無理をすとか努力をすという気持ちが乏しい」「自分がこちよと感じる生活を優先したい」など、現代の若者の働き方も特徴の一つと考えられるが、看護教育は対象が人であるからこそ専門職業人として責任持つこととはどういうこと

なのかを、在学中に身につくようにさせていきたい。

### 看護技術の習得状況



技術の根拠となる基礎知識と人間や環境・看護の基盤となる知識の不足が影響しているため、実践につながらないと考えられる。看護教育は①倫理・態度、②看護専門知識、③解釈、④問題解決、⑤看護技術を身につけることを考えると、倫理面の育成においては授業で学んだ看護者の倫理綱領を、他看護学の授業や臨地実習でも今まで以上に意識して指導していく。基本的な原則を学びながら対象に応じた具体的・個別的な実践方法が学べるのではないかと考える。授業で取得した知識を対象の状況説明に使い、その知識を活用して対象に合った看護実践ができる様な授業方法を、再度検討していけるとよい。